

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	理工学研究科
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 教育研究支援体制の整備を行う。	→任期制教員数。	B
2. 教員の研究時間を確保する。	→教員1人当たりの委員会数。	C
3. 理工学研究科と関連する倫理規定について啓発活動を行う。	→倫理講習会の開催数。	A
4. セミナーが適切な人数で行える施設を確保する。	→セミナーに使える教室数。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

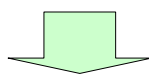
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目9.0.4	<p>(方針)</p> <p>大学院教育の活性化のためのセミナー室、自習・食事・休憩スペース等の確保が課題となっている。教員の学部教育にかける時間は増加傾向にあり、大学院教育の活性化には不可欠である教員の研究時間や研究費獲得に要する労力・時間の確保が難しくなっている。このような現状で教育研究を支援する環境や条件を整備し大学院を取り巻く諸問題を解決するための方針として、</p> <p>現有施設・設備の整備と転用 大学院進学率の維持、向上とTA・RAの人材・財源の確保、大学院生のキャリア支援 会議の簡素化、プロジェクト研究の推進 を進めていく。</p> <p>(現状説明)</p> <p>少人数のセミナーを開催できるスペースの増大についてはIV号館の空きスペースを改修することで新たに2部屋確保することができたが、依然として不足している状況にある。</p> <p>学生の安全確保を目的としてIV号館内に監視カメラを設置することが検討され、予算申請が行われた。厚生施設としてIV号館の空きスペースに軽食と清涼飲料水の自動販売機を中心とする休憩スペースが新設された。大学における滞在時間が長い大学院生に好評であるが、本格的な食事・休憩スペースの増設については次年度以降の課題である。</p> <p>防災、セキュリティ面についてはキャンパス内に非常警報装置が8台(うち5台はAEDも設置)新設された。学生の安全確保を目的としてVI号館の夜間出入口には監視カメラが設けられた。</p> <p>TA・RAなどの教育支援要員を取り巻く状況について当該年度には大きな進展は認められていない。次年度以降は新学科・専攻の増設に伴い増大中の学部学生の学習支援のためのTA・RAの増員が不可欠であるが、大学院生の人数、予算共に頭打ちの状況にあり有効な施策も講じられていない状況にある。</p> <p>大学院教育と密接に関係する先端的研究環境の整備については、2009年度は2件のJST、1件のNEDO件、5件の文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業含む)のプロジェクトが稼働している。これらの事業を通してRA、博士研究員などが多く採用され、大学院生にとっても刺激となっている。外部資金、特に科研費については近年[採択率/専任教員数]の漸減が懸念されており、申請書作成のための講習会も開催されるようになったが、一足飛びの効果は表れていないのが現状である。一部の教員に過重な負担が集中する傾向は2009年度も改善せず、これら多忙な教員が研究時間を確保し、自身が指導する大学院生に対し、研究を通じて良質な教育を行うことはますます困難になってきている。</p>
☆ その他	理工学部では人権、障がい者、倫理等に関する研修会を毎年開催している。また動物実験、ヒトゲノム、遺伝子解析研究に関する安全倫理委員会があり、定期的に講習会を開催している。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

★	小項目9.0.4	
	その他	



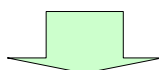
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

★	小項目9.0.4	
	その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

★	小項目9.0.4	少人数セミナー室の確保
	その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

★	小項目9.0.4	既存の空きスペースの改修を進める
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

- 教育研究等環境の改善への取組が意欲的に進められています。
- 少人数セミナー室の確保について進展が期待されます。
- 委員会の効率化により教員の研究時間が確保されることが望まれます。

【学内委員】

- ここに示されている評価内容は理工学研究科の自助努力だけでは解決できない問題が種々含まれています。KSC固有の問題、大学全体で取り組まなければならない問題との切り分けも必要ではと思われまます。また、倫理規定に関する講習会はAとの評価ですが、「小項目ごとの現状説明」においてその回数を示し評価することを期待されます。
- 施設および設備改修により、一部内容が充実したところもあるようですが、学生数の増加により、目標として挙げられているセミナーに適した教室数は十分に確保できていないようです。施設面での工夫によりできるだけ多くの教室を確保できることが望まれます。RAは外部資金の有効利用により、積極的に採用され、この点は大いに評価できます。教員の研究時間の確保については、一部教員への負担の集中を避けるべく、公平は仕事の割り振りが求められます。倫理規定に関する啓発活動については、適切に行われている点が大いに評価できます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★	0.2 (その他)	人権、障がい者、倫理等に関する講習会は2009年度には1回開催した。また動物実験に関する講習会も1回開催した。
---	-----------	---

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

9.0.0.S1	個人研究費・研究旅費の額
9.0.0.S2	留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況
9.0.0.S5	科研費の申請・採択件数
9.0.0.S6	学外からの研究費の総額と一人当たりの額
9.0.0.S11	専任教員の発表論文数
9.0.0.S13	学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文件数
9.0.0.S14	21世紀COEプログラムの採択状況
9.0.0.S15	文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況
9.0.0.S16	特定プロジェクト研究センター制度の活用状況
9.0.0.S18	校地、校舎、講義室・演習室等の面積
9.0.0.S21	教室の種別数と使用率
9.0.0.S22	PC設置台数
9.0.0.S23	研究設備(文科省補助、学院購入)の整備状況
9.0.0.S24	シャトルバスの利用状況

<個別的な指標>
